（郵便報知新聞紙第二千百三十六號）　（本號六面）　明治二十一年十二月十二日

時事新報

時事新報は日本國中唯一の毎日刊行新聞紙なり

第二千百三十六號
明治廿一年十二月十二日水曜日
舊戊子十一月十日（丁巳）
日出午前六時四十三分　入午後四時二十七分
月出午後一時十分　入午前零時三十五分
滿潮午前零時二十分
（西暦一千八百八十八年）

時事新報代金の早達便

本社は時事新報代金送達の便を謀り內國通運會社と特約を結びたるに就き左記の地方より御拂入れの新報代金は同會社の貨幣早達便より御依托相成候得ば特別より左表の運賃より二割を引き且つ無配達賃にて送達可致候現行の郵便小爲替法にては三圓以下の金員を送達するに爲替料三錢郵券料二錢、書留料六錢都合十一錢を要する事なれ共今此の貨幣早達便より依れば五圓以下は只四錢の運賃のみにて送達し若し送金通知書を發する場合には右の運賃に端書一葉の代金一錢を加へ悉皆の費用五錢にて事足るべきに付新報代價の拂入にい最も便利なる法と存候

時事新報社

內國通運會社貨幣早達便取扱箇所

（追々箇所增設の筈）

東京佐內町
尾張熱田
靜岡
陸奥
青森
尾張名古屋
駿河
越前
敦賀
前橋
宇都宮
甲斐
甲府
上野
信濃
長野
遠江
掛川
岡崎
上野
高崎
京都
千葉
若松
信濃上田
陸前仙臺
陸中盛岡
郡山
三河
山城
下總
岩代
越後
羽後
秋田
札幌
岩代石狩
美濃岐阜
讃岐丸亀
備前岡山
近江大津
筑前博多
長門下關
相模小田原
常陸水戸
下野栃木
加賀金澤
越後直江津
羽後山形
武藏
相模藤澤
下野足利
上野桐生
內國通運會社貨幣早達便運賃表

同金高	五圓未滿	遠近より拘らず運賃金五錢	
同	十五圓迄	同	七錢
同	二十五圓迄	同	十錢
同	廿五圓迄	同	十三錢
同	五十圓迄	同	十六錢
同		同	二十錢

（時事新報代金は此表より二割引を以て送達すべし）

時事新報

政談の品格

凡そ此世に生々する人間は其身の關係種々樣々なる中にも政治上の關係ほど身より適切なるものはなかるべし第一は納稅兵役の關係の如きは國民一般の義務として何人と雖も免る可らざるのみと勿論なれども猶ほ此義務を外にしても工業なり商業なり農業なり其職業の何たるを論なく何れも之に從事する者は一國民として政治上の關係あらざるはなし既に關係ある以上は又その利害得失に就て夫々の思慮分別あるべきのみと勿論にして之を名けて人民の政治思想と稱す蓋し多數の人民中には何の考もなく唯納稅兵役の義務を盡すを以て足れりとして更に其以上の事に思ひ至らざるものも固より多からんなれども智識少しく進みたる人民に至りては政治の思想なきを得ずして其思想の外に發したるもの即ち政談と爲るのみとなり若れば世に政談の喧しきは人民に政治思想の盛なる兆ゝして其智識進歩の結果なるが故に厭ふ可きに非ず寧ろ喜ぶ可きなれども扨その外に發する政談の調の高きと卑きとは內に蓄ふる智識の深淺と關係するものなれば政談の品格は人民の智識を量るの標準と云ふも可なり喩へば男女相愛の事の如くと之を貴賤人士の話柄とするときは風流の粹事、即て最も言ふべしと雖も一たび野人僧父の口に上れば其事卑猥にして耳に聞く可らざるが如し物の品格の高卑は其物の體を在りのまゝにして却て之を取扱ふ人物の品格如何に在りとして遠くとなかるべし顧ふ我國近來の現況を察するに國會の開設も既に近寄りたるに就きその準備に忙はしきは官と民とを別なく公に私に政黨を團結し政友を募集するなど政治社會の有樣は一層その盛を增したるが如し左れば都鄙到る處に政談の流行を見るは當然の事にして今後にの有樣は年一年に益す〳〵繁昌に赴く事あらん我輩は此有樣を見て敢て驚くものにあらず又大に喜ぶものにもあらざれども唯國の爲めに謀り其政談の品格をして高尚ならしめんと欲するのみ政を談ずるは猶ほ劇を談ずるが如し劇場の看客悉く劇に通ずるものにあらず又其技に熟するものにあらず然れども所謂看功者なるものに至りては其評、常に微妙の極に入り時に當場の老優をして感服せしむるとあり云ふ今夫れ世の政を談ずる者は必しも身親ら政局に當るの心掛あるものにあらず或は粹興贅澤の一にして物數寄に談ずるものもあらん、或は憂世慨時の一念發して政談となるものもあらん、又或は一身利名の心より之を事とするものもあらん、其目的心事は何れにしても之を外に發する以上は即ち政談にして人民政治上の智識の如何を代表するものなれば其品格の高尚なして聞く者も感服し言ふ者も其甲斐あるのみそ政談の本色と冒ふべければ我輩は政談の盛なると共に其品格の高尚ならん事を祈るものなり

雜報

○幼冲の練兵　獨逸の故老帝ウイルヘルム第一世の晩年は帝の老衰せる故にや尙武の國風往時に異なるみとなしとは云ひながら今日の如く甚しからざる所あり續いてフリードリヒ第三世の治世は病中僅かに數箇月なれば評するに足らずと雖ども帝の文を崇ぶの氣風は自ら國內の事物を支配したるものゝ如し然るに今帝ウイルヘルム第二世の即位以來は國の元氣たる尙武の氣風に一層の勢焰を加へたる趣あり其證として最も見易き例を擧げんに太子フリードリヒ ウイルヘルム 親王六歲を始めとしてクリスチヤン カロル 親王五歲アダベルト親王四歲の三皇子は未だ東西の方角さへ知るや知らずのわど氣なき最も幼冲の齡なるにも拘はらず帝は早くも既に武邊の敎育に注意し膝下近く在らせては帝及び皇后の慈愛の熱情に妨げられ愛子の不爲なるべしとて伯林より十二時間を費さゞれば達するみと能はざる程の遠方オベルホフへ遣し三名の武官に任せて日々軍の斷引と擧ばしむる其有樣、稽古場は大砲二門を備へたる鋒頭堡を築き百ヤード計りを離れて露營あり此稽古場に於て皇子は三人共に一樣に軍服を着け長靴を履き劍を佩びて武官三名の守役（內一名は騎馬二名は徒步）が誡令するに從ひ一人は太鼓を打ち二人は劍銃を肩にして進退するを常とし四歲の皇子に附添ふ保母は言ふべしと雖も一たび野人僧父の口に上れば其事卑猥にして耳に聞く可らざるが如し物の品格の高卑は其物の體を在りのまゝにして却て之を取扱ふ人物の品格如何に在りとして遠くとなかるべし顧ふ我國近來の現況を察するに國會の開設も既に近寄りたるに就きその準備に忙はしきは官と民とを別なく公に私に政黨を團結し政友を募集するなど政治社會の有樣は一層その盛を增したるが如し左れば都鄙到る處に政談の流行を見るは當然の事にして今後にの有樣は年一年に益す〳〵繁昌に赴く事あらん我輩は此有樣を見て敢て驚くものにあらず又大に喜ぶものにもあらざれども唯國の爲めに謀り其政談の品格をして高尚ならしめんと欲するのみ政を談ずるは猶ほ劇を談ずるが如し劇場の看客悉く劇に通ずるものにあらず又其技に熟するものにあらず然れども所謂看功者なるものに至りては其評、常に微妙の極に入り時に當場の老優をして感服せしむるとあり云ふ今夫れ世の政を談ずる者は必しも身親ら政局に當るの心掛あるものにあらず或は時の流行に雷同して談ずるものもあらん、或は粹興贅澤の一にして物數寄に談ずるものもあらん、或は憂世慨時の一念發して政談となるものもあらん、又或は一身利名の心より之を事とするものもあらん、其目的心事は何れにしても之を外に發する以上は即ち政談にして人民政治上の智識の如何を代表するものなれば其品格の高尚なるは聞く者も感服し言ふ者も其甲斐あるのみそ政談の本色と冒ふべければ我輩は政談の盛なると共に其品格の高尚ならん事を祈るものなり

士に慣れ最も軍事の談を聞くみとを好むと云ふ

○塞中及び暑中の休暇　師範高等及び中學校のみとは暫く措き七歲以上十三四歲までの小供の入るべき諸小學校にては日曜祭日の外に一年兩度の長休みあり一は暑中休暇にして其の一は塞中休暇あり塞中休暇と云ふは只暑中に對したる名目にして實際塞氣嚴しきが故に休暇を與ふると云ふには非ずして年嚴歲育は一年の中最も忙しき師走を越えて最も徐けき正月に移る間合なれば學校より出づる心もせざるものに付き十二月二十七八日より明けて一月七八日まで休暇を與ふるは遺ざれども暑中休暇の起元は全く文字の通り夏日暑氣の烈しき迚も讀書の業を習ふに堪へざる可しとの意味に出でたるものならん乍去我國一般の時候より見るに眞實暑中に休暇せざる可らざるほどのみともなく假令へ萬已むを得ざる土地にても五六十日の久しきに涉るべき閉校には及ばざる可し其要おきに永く休暇して閉校するときは往々小學生徒の進歩を妨ぐる事情おきに非ざれば全く暑中休暇を廢止せざるまでも短縮しては如何、暑中の休日を少おくして其代り小供が自家の家事の役に入用ある時に臨み一定の休校するとなし例へば海濱の學校なれば鰯漁の盛んなる季節にして小供にても網を曳くときは日に幾十幾錢の所得あるべし將たまた學校の田畑多き土地に在るときは捕秧或は收穫の節に至り幼おき小供にても父母の手助けとなり雇人少なくして事濟むおらん此等の時に臨時一定の休業を許すあれば生徒父兄の家事に便ずるのみならず實業敎育の趣意にも叶ふことゆゑ彼の害みそれ利益少おき暑中の長休みを節省して其方に振向くるみと然る可しとの意見文部當局の間に行はれたるに付き曩きに各府縣の敎育會或は師範學校おどに問合せたるものに對する答案の追々到達する文面を見るに十の七八は右の意見を贊成せざるなく今は殆んど敎育社會の公論ともおらんず樣子なれば塞中休暇は此儘おれども暑中休暇には何とか改正の法を行ふ可しと聞く

○地方の政況　（一昨日の續き）

福井縣　縣會の概況　福井縣にては十一月十七日より廿一年度の臨時縣會を開き引續き廿二年度の通常縣會に移りたるが臨時縣會中最も世人の耳目を驚動したるは遠敷郡長藤田孫平氏の解職を內務大臣に建議する事に決議したる事なりそも此件に就ては理事者は大に憂慮し若し縣會にていよ〳〵此決議をおさば直ちに會議を中止せんとの評議ありしも拘はらず縣會は滿場一致を以て此建議を可決し即日閉場したるを以て中止の不幸を見るに至らざりき偖同縣會議員（定員卅六名）中には二黨派（政治上の主義より分立せしと云ふには非ず）ありそは昨年常置委員改撰の際には互に其地位を爭ひしより起因せる者にて縣民は一を常置委員黨（現任副議長常置委員等）と云ひ一を非常置委員黨（議長等の派）と云ふ今度の通常縣會に於て常置委員會は三萬餘圓の臨時地方稅を支出するに決議し之を議場に報告するに及で非常置委員黨は非常の熱心を以て是に反對し遂に議場に於て副議長及び常置委員等に向て辭職を勸告するに至り每日兩黨の舌戰實に目覺しければ傍觀人は常に充滿して議事堂の賑かなるは近年稀有の事なりされども之れが爲め肝要の議事拙取らず到底日限內には議了の運びに至るまじと云ふ○縣內の政況　同縣內には從來政治上の有志者間なかりしが近頃に至ては一般人民にて各町村より無記名の似ざる議員は關らざりし政談會を催ほし又以前同縣下の演說會を催ほしとおく縣下一般の政治思想に至ては却て反動の勢力に奔走する事一は銀行役員の如き和歌山縣の政況　淡にして近來絕の如き者を組織縣會議員撰擧の際には唯ず一時に止まらず唯伊都郡賀奧派（或は兒玉派）の爭は稍々眼覺しき種々の事業に着に紀陽新聞は西日々新聞は兒玉派又兒玉派にては近論見あるよし後るものは此二派素の牟婁郡中にに注意すべきもの

○控訴院の下乘下制を解きたるに付なりしが何ら都合

○福岡と博多との隔つるの今度市町村制實施離せんとて委員十決したるよ

集會を催して博多あらんとて密々會と岡地よりの特報

○敎員任用法　府の成規ありしよし施せざる者あるよとして假令へ助敎員其理由を附して屆

○夫人の名稱　各し みとに成りしも何妃とあり主が說する處によれば

○塞中及び暑中の休暇　師範高等及び中學校のみとは暫く措き七歲以上十三四歲までの小供の入るべき諸小學校にては日曜祭日の外に一年兩度の長休みあり一は暑中休暇にして其の一は塞中休暇あり塞中休暇と云ふは只暑中に對したる名目にして實際塞氣嚴しきが故に休暇を與ふると云ふには非ずして年嚴歲育は一年の中最も忙しき師走を越えて最も徐けき正月に移る間合なれば學校より出づる心もせざるものに付き十二月二十七八日より明けて一月七八日まで休暇を與ふるは遺ざれども暑中休暇の起元は全く文字の通り夏日暑氣の烈しき迚も讀書の業を習ふに堪へざる可しとの意味に出でたるものならん乍去我國一般の時候より見るに眞實暑中に休暇せざる可らざるほどのみともなく假令へ萬已むを得ざる土地にても五六十日の久しきに涉るべき閉校には及ばざる可し其要おきに永く休暇して閉校するときは往々小學生徒の進歩を妨ぐる事情おきに非ざれば全く暑中休暇を廢止せざるまでも短縮しては如何、暑中の休日を少おくして其代り小供が自家の家事の役に入用ある時に臨み一定の休校するとなし例へば海濱の學校なれば鰯漁の盛んなる季節にして小供にても網を曳くときは日に幾十幾錢の所得あるべし將たまた學校の田畑多き土地に在るときは捕秧或は收穫の節に至り幼おき小供にても父母の手助けとなり雇人少なくして事濟むおらん此等の時に臨時一定の休業を許すあれば生徒父兄の家事に便ずるのみならず實業敎育の趣意にも叶ふことゆゑ彼の害みそれ利益少おき暑中の長休みを節省して其方に振向くるみと然る可しとの意見文部當局の間に行はれたるに付き曩きに各府縣の敎育會或は師範學校おどに問合せたるものに對する答案の追々到達する文面を見るに十の七八は右の意見を贊成せざるなく今は殆んど敎育社會の公論ともおらんず樣子なれば塞中休暇は此儘おれども暑中休暇には何とか改正の法を行ふ可しと聞く

○地方の政況　（一昨日の續き）

福井縣　縣會の概況　福井縣にては十一月十七日より廿一年度の臨時縣會を開き引續き廿二年度の通常縣會に移りたるが臨時縣會中最も世人の耳目を驚動したるは遠敷郡長藤田孫平氏の解職を內務大臣に建議する事に決議したる事なりそも此件に就ては理事者は大に憂慮し若し縣會にていよ〳〵此決議をおさば直ちに會議を中止せんとの評議ありしも拘はらず縣會は滿場一致を以て此建議を可決し即日閉場したるを以て中止の不幸を見るに至らざりき偖同縣會議員（定員卅六名）中には二黨派（政治上の主義より分立せしと云ふには非ず）ありそは昨年常置委員改撰の際には互に其地位を爭ひしより起因せる者にて縣民は一を常置委員黨（現任副議長常置委員等）と云ひ一を非常置委員黨（議長等の派）と云ふ今度の通常縣會に於て常置委員會は三萬餘圓の臨時地方稅を支出するに決議し之を議場に報告するに及で非常置委員黨は非常の熱心を以て是に反對し遂に議場に於て副議長及び常置委員等に向て辭職を勸告するに至り每日兩黨の舌戰實に目覺しければ傍觀人は常に充滿して議事堂の賑かなるは近年稀有の事なりされども之れが爲め肝要の議事拙取らず到底日限內には議了の運びに至るまじと云ふ○縣內の政況　同縣內には從來政治上の有志者間なかりしが近頃に至ては一般人民にて各町村より無記名の似ざる議員は關らざりし政談會を催ほし又以前同縣下の演說會を催ほしとおく縣下一般の政治思想に至ては却て反動の勢力に奔走する事一は銀行役員の如き和歌山縣の政況　淡にして近來絕の如き者を組織縣會議員撰擧の際には唯ず一時に止まらず唯伊都郡賀奧派（或は兒玉派）の爭は稍々眼覺しき種々の事業に着に紀陽新聞は西日々新聞は兒玉派又兒玉派にては近論見あるよし後るものは此二派素の牟婁郡中にに注意すべきもの

○控訴院の下乘下制を解きたるに付なりしが何ら都合

○福岡と博多との隔つるの今度市町村制實施離せんとて委員十決したるよ

集會を催して博多あらんとて密々會と岡地よりの特報

○敎員任用法　府の成規ありしよし施せざる者あるよとして假令へ助敎員其理由を附して屆

○夫人の名稱　各し みとに成りしも何妃とあり主が說する處によれば